1/6-12#4召会を建造するための王国の訓練
CP1II召会の建造は、三つのかぎを活用することを通して、ハデス[陰府]の門を閉じることにかかっていますA私たちは自己を否むというかぎを活用することを学ぶ必要があります:マタイ16:24それから、イエスは弟子たちに言われた、「だれでも私について来たいなら、自分を否み、自分の十字架を負い、私に従って来なさい。3自己は、神からの独立を宣言する魂です:c私たちは神に依り頼むだけでなく、からだにも、兄弟姉妹にも依り頼むべきです。d主とからだは一です。ですから、私たちはからだに依り頼んでいるなら、主にも依り頼んでいます。私たちはからだから独立しているなら、自然に主からも独立しています。兄弟姉妹から独立する時はいつでも、私たちは自己の中におり、独立した魂の中にいます。今日、私たちがからだから独立することは、神から独立することに等しいです。...あなたの経験を調べるなら、あなたが兄弟姉妹から独立した時、神からも独立しているという感覚を持ったことに気づくでしょう。同じように、あなたが兄弟姉妹から孤立した時、あなたはまた神から孤立しているという感覚を持ちました。...あなたが主の臨在を持たないのは、からだから孤立しているからであり、からだの肢体たちと正しくかかわっていないからです。建造されるように、からだに対して正しくあるように努めなさい。もしからだに対して正しく、からだの中で建造されているなら、あなたは確かに主の臨在を感じるでしょう。
CP2IIA5私たちが自己を否むというかぎを活用して自己を閉じ込めるなら、感情を害されることはあり得ません。感情を害されない者は幸いです:ルカ23:34 その時、イエスは言われた、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか、わからないのですから」。aもし私たちが感情を害されることがあり得るなら、それは私たちが自己に満ちていることの証拠です。6私たちは自己を否むというかぎを活用して、あらゆる状況において自己を閉じ込めることを学ぶ必要があります:b自己が閉じ込められているなら、召会は建造されます。ある事柄が起こって私たちに触れるとき、自己が開かれます。私たちがハデスに対して開いているので、ハデスからのもの、サタンが出て来るのです。私たちは自己を閉じるために、どれほど自己を否むかぎを用いる必要があることでしょう! 他の人によって感情を害されることから守られる方法は、自分自身を否むことによって、あなた自身を閉じ込めることです。感情を害されない者は幸いです。...主イエスは来て、彼の裁きの座を設けられるとき、私たちに清算するよう告げられます。彼は、なぜ私たちがある場所で感情を害されたのかと私たちに尋ねられるかもしれません。しかし、もし私たちが自分自身のために弁解しても、主はそれらを受け入れられないでしょう。問題は感情を害させるものではありません。問題は自己です。あるウイルスは非常に伝染力があります。しかしながら、机を病気にさせることができるウイルスはありません。もしあなたが感情を害されることがあり得るなら、それはあなたが自己に満ちていることの証明です。
証1日本人である私は、人との衝突を避ける傾向が強くあり、そのゆえに人間関係は希薄で、あまり人と深く関わりたくないと思うことが多いです。しかし今年、北投からの兄弟姉妹が神戸にブレンディングに来られて彼らの自然で密な召会生活の様子を見ました。数日間だけですが、彼らが表面上だけでなく、生活の中でよくブレンディングして、溶け合っている様子を見て、召会生活の中では、浅い関係性のままでは前進がないのだと照らされました。人と深く関わる時には、感情を害したり、害されたりは避けられないかもしれませんが、自己を否むのならハデスの門を閉じる鍵とする機会となることを感謝します。私は自己で満ちているので、容易に感情を害されやすいのですが、訓練して、自己を閉じ込め、召会を建造する者となりたいです。
証2自己を否む鍵を活用しなければ、些細なことで感情が害されて、召会生活ができなくなることを証します。私は大学1回生の秋からブラザーズハウス(BH)に住み始めました。2人の先輩の兄弟たちと1人の同学年の兄弟と4人で共同生活を始めました。一緒に生活し始めると、私は彼らの何気ない言葉に、度々腹を立てました。例えば、BHでは食事を当番制で作っていたのですが、私が作った時、彼らが批評したことについて、私は怒りました。BHの生活の中で、自分が単純でなく、複雑な人で、直ぐに感情を害する短気な人であることが分かるようになりました。更に、私は召会の責任者の兄弟たちについても、不満を持っていました。このような状況の中で、私は自分の心の中は暗く、堕落しており、怒りに満ちていることに気付き、このままでは前進できないと感じました。そして、旧約聖書の中のイスラエルの民が何度も繰り返し堕落している歴史を思い出しました。私は最初にこの堕落した歴史を読んだ時、彼らに対して憤りました。しかし、自分自身も彼らと同じである、あるいは彼ら以上に邪悪であることが分かるようになりました。私は少しでも油断して主から離れ、継続的に主に信頼することを中断すると、主に従うことができないと思うようになりました。その後、私は少しずつ、自己を否む鍵を用いて、ハデスに対して門を閉ざ

し、サタンからのものを拒絶することを経験し始めました。自己を否むまでは、他のどの人とも建造されず、いつも他の人に対する不信感や怒りなどの問題を持っていました。しかし、私が主に依存し、自己を否む鍵を使い始めてから、キリストのからだである兄弟姉妹にも開くようになり、互いに建造されるようになりました。このように奉仕し始めてから、私の内側は、平安があり、焦りから解放されるようになりました。同時に、職場でも神経質に他の人の言動に反応することがなくなりました。自己を否むというと何か大変なことのように思ってしまいますが、実は自己とサタンは繋がっており、自己を否まないと、サタンの策略にはまり、サタンからのものである、怒り、高ぶり、嫉妬などで満たされてしまい、とんでもないことになってしまうことが、啓示と経験により分かりました。それは私が他の人と建造されるためです。ハレルヤ、自己を否む鍵を活用するなら、サタンは出てこられないので、召会は建造されます。祈りおお主イエスよ、感情を害されるのは、私が自己に満ちている証拠です。自己を否む鍵を活用して自己を閉じ込めるなら、感情は害されることなく、召会は建造されます。

CP3IIB私たちは十字架を負うというかぎを活用することを学ぶ必要があります:2「自分の十字架を負い…なさい」(マタイ16:24)は、私たちが強いられて十字架を担うのではなく、進んで十字架を負うことを意味します:a私たちの夫、妻、子供たちは神のみこころであり、それゆえ私たちの十字架です。bある一つの召会は神のみこころであり、その召会の中のあらゆる兄弟姉妹は神のみこころです。ですから、十字架を担うことは、その召会を担うこと、またすべての聖徒たちを担って、私たちが真の一を持つことです。エペソ4:3 平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。注意してください。主イエスは「自分を否み、十字架につけられなさい」と言われたのではないのです。…しかしながら、ある兄弟たちは言いました、「私は多くの時、私の親愛なる妻によって十字架につけられてきました」。そのような兄弟たちは十字架を担う人たちではありません。彼らは妻によって死刑を執行された犯罪者です。もしあなたが、自分の子供たちがあなたを十字架につけていると言うなら、あなたは十字架を担う人ではなく、死刑を執行された犯罪者です。…あなたは犯罪者でしょうか、あるいは十字架を担う人でしょうか? 私たちはみな次のように言う必要があります、「主を賛美します。私は犯罪者ではありません。私は進んで十字架を担う人です。私は他の人たちによって十字架につけられたのではありません。そうではなく、私は十字架を負い、十字架を担います」。

CP4IIC私たちは魂の命を失うというかぎを活用することを学ぶ必要があります:マタイ16:25 なぜなら、すべて自分の魂の命を救おうとする者はそれを失い、すべて私のために自分の魂の命を失う者はそれを見いだすからである。1魂の命を救うとは、魂にその享受を得させることによって、自己を喜ばせることです。魂の命を失うとは、魂の享受を失うことです:dもし私たちがこの時代に自分の魂の命を救うなら、来たるべき時代にそれを失います。しかし、この時代に自分の魂の命を失うなら、来たるべき時代にそれを見いだします。2私たちが主のため、召会のため、すべての聖徒のために、自分の現在の魂の享受をすべて進んで失うなら、他の人は私たちによって養われ、私たちを通して建造されます。これは苦難ではなく、喜びです。ヘブル12:2 私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼はご自分の前に置かれた喜びのために、恥をもいとわないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座しておられるのです。キリストは拒絶されたので、現在、彼にはこの地上に何の喜びもありません。私たちは彼に従う人として、彼の定めにあずかります。主イエスに従う人としての私たちの定めは、この世に歓迎されることではありません。そうではなく、それは拒絶されることです。ですから、この時代は、私たちが自分の魂の享受を持つ時ではありません。私たちがこの享受を失う時です。主イエスが戻って来られる時、それは彼が地を享受する時です。サタンは縛られ、キリストは地を回復され、全地は彼の支配の下にあるようになります。その時、キリストは地を享受し、彼に従う人はみなこの享受にあずかります。これがマタイ25:21と23の意味です。その両方の節は言います、「よくやった、良い忠信な奴隷よ。あなたはわずかな事柄に忠信であった。私はあなたに多くの事柄を管理させよう。あなたの主人の喜びの中に入りなさい」。このことは、主イエスが地を取り戻し、地を享受される千年期に起こります。地を再び所有することによって、主は享受を持ちます。その時、主は彼に従う人、彼のパートナーに彼の喜びの中に入るよう求められます。…ある姉妹が彼女の夫を赦すことによって自分の魂を失うなら、それは彼女にとっても彼女の家族にとっても喜びです。それは正常な家庭生活を建て上げるという結果となります。召会の建造についても原則は同じです。私たちの魂の享受を失うことは喜びです。なぜなら、私たちは結果として、召会の建造を見るからです。もしあなたが進んで、実際的な方法で自分の魂を失うなら、他の人はあなたによって養われ、あなたを通して建造されます。